

戦
闘
記

屯
田
兵
本
部

0521

戦闘記

明治十年四月九日熊本縣下一出兵ノ義黒田参
軍ヨリ電報アリ其翌十日札幌ヲ發シ越テ十日
日將校以下一同太平丸一乗船午後十時小樽港
枝館十八日航路凡濤烈シク午後四時三十分佐
渡ノ國多田浦一寄泊翌十九日午前一時多田浦
ヲ發シ廿三日午後一時四十分肥後百貫石一着
赤山少佐及士官稅所舊彥荒城重雄春日艦ニ至
リ伊東海軍少將ニ戦地ノ情況ヲ聞ク官軍熊本
城ノ聯絡通シ賊兵一ハ大津一ハ人吉一白ヶ退
却セリ依テ堀大佐及前諸員ト居テ上陸熊本ノ
總督本營ニ至リ進止ヲ取ル此取黒田中將ハ也

明治十年

、參軍ノ職ヲ辭キ長崎ニ在リ

廿五日折田崩拓少番記官隨行屬官三名及東京
招募ノ人丈五十人ヲ奪テ橋亀丸ニ乗組黒田長
官ノ指令ヲ傳ヘテ百貫石ニ着ス兵隊ハ昨日已
ニ上陸小樽町ニ合營ス

廿七日總督本營ヨリ別働隊兼ニ旅團へ編入セ
ラル、吉黒田長官ヨリ伺ノ通御指令アリ八代
口ヨリ人吉攻撃ノ員ニ備ル

廿八日總隊小樽町ヲ発シ宇土ヲ經テ廿九日八
代ニ達ス

三十日前面ノ地理探偵トシテ上長官以下士官
并ニ下士官若干名坂本ヨリ辻日光木々須等ノ
諸村ヲ巡ル

0523

五月一日第一中隊ヲ以栢谷及横石等ハ哨兵ヲ
張リ門裕大尉引率分遣セリ

三日万江口偵察トシテ第一中隊ヲ繰出シ上長
官以下出張ス賊ハ鹿沢ニ防禦スル由土人ノ報
アリ卯路古屋敷ニ宿シテ翌四日八代ニ泊ル
五日團長ハ伺ノ事アリ堀大佐折田少春記官隈
庄本陣ニ至ル永山少佐栢谷ノ哨兵線ヲ巡視ス
七日第一中隊ヲ栢谷ヨリ河原谷ニ進ノ第一中
隊ヲシテ早水ヨリ辻村迄出兵ハ別働隊第四旅
團ノ哨兵ニ交代セシム

十二日團長山田少將隨行人上長官士官ト共ニ
河原谷ノ我本陣ニ集リ攻進ノ部署ヲ畫ス

十八日内谷河原谷ノ第一中隊ト第二中隊ノ右

一
月
七
日

小隊ヲ引纏根峠ニ登リ野宮ヲ張ル兼ニ中隊ノ
 左小隊前日ヨリ内谷分遣ノ兵ハ無田峠ヨリ直ニ
 今村ニ達スルニ擬ス此日八木少佐引率スル部
 兵一中隊ト水島大尉引率スル狙撃隊六十名ヲ
 援隊トセリ
 十九日大河内ノ賊ヲ攻撃ス兼ニ中隊ノ右小隊
 安田中尉之ヲ指揮シ家村大尉ト共ニ万江山口
 谷ノ本道ヨリ進ム兼ニ中隊ノ右小隊ハ狙撃隊
 六十名ヲ援隊トシ野尻少尉久木田少尉等引率
 シテ税所大尉共ニ本道右側ノ山ヨリ直ニ大河
 内村ノ賊陣ニ突入シ銃器其外雜具若干ヲ分捕
 ル左小隊ハ子早中尉藤崎少尉建部少尉等引率
 シテテルカク道ヲ左折シ水無村ニ進入ス八木

0525

少佐ノ一中隊ヲ援隊トス賊ハ哨兵線内へ我軍
ニ突入セテレシヲ以狼狽遁走白滝ニ退キ鋒ノ
窪ニ登リ我軍ト一溪ヲ隔テハ剛戰賊四五名死
傷アリ午后三時敗走鹿沢ニ北夕此日我兵右翼
水無村へ進入ノ隊ハ横道ニ於テ大河内ノ兵ト
連絡シテ交戦正面大河内ノ兵ハ右側横道へ一
分隊ヲ遣リ坂本少尉指揮シテ交戦ス兵卒近藤
柳吉勇進相撃シ竟ニ重傷ヲ負本道ハ税所中尉
引率スル兵ヲ以テ交戦堀大佐折田春記官等攻
撃ノ策ヲ令ス左側山上ノ竹藪へハ野尻久木田
兩少尉ノ分隊ヲ以對戦ス

二十日三石鏡山高岳等ノ諸山へ哨兵ヲ張ル
廿一日第二中隊左小隊前導初夜兩少尉等引率

スル分内谷ヨリ引上今村へ警備ヲ張リ前導サ
尉ハ直ニ除鳥帽子峠ヨリ上リ虚勢ヲ張リ日暮賊
十一ヲ奪フ

廿二日賊二百名餘鋒ノ富ニ襲来前日交戦ノ地
哨兵線ニ於テ再ニ開戦ス晩ニ至リ賊悉ク遁走
セリ

廿三日八木中佐ノ兵今朝国見峠ヲ取ルノ報ア
ルニ依リ直ニ我水無村ノ哨兵ヲ鋒ノ富ヨリト
ウカク山ニ進メ早中尉以下凡テ山上ニ露営
ス左翼ノケボレ峠ノ哨兵ハ平瀬口中村中佐ノ
兵ト交代シ石ノ本ヨリ右ニ哨兵ヲ繰上ケ左翼
ノ召兵ト連絡ス此取ニ当リ玖摩ノ諸山官賊兩
軍ノ對峙スル所暮夜ノ篝火数百ヶ點ヲ輝シ実

秋天ノ星ノ如シ
 廿四日糧道警備ノ専前日ヨリ榎ノ本峠へ分遣
 セル初將少尉ノ一分隊（先遣隊）國見峠ヲ占ムル
 ヲ以テ引揚ク
 廿九日第一中隊ノ在小隊右翼テルカク道明日
 進撃ノ援兵トシ永山少佐統率大尉千早中尉篠
 寄建部兩少尉ト共ニ晩ニ乘レテトウカク山ニ
 登リ野營ヲ張ル同左小隊ノ二分隊ハ野鹿久木
 田兩少尉明曉ガレワテ攻撃ノ専晚ニ乘レ白瀧
 山ニ登リ露營シ本道ハ安田中尉引率スル兵ヲ
 以白瀧村ニ伏ス
 三十日右翼テルカク道援兵ニ不及旨團長ノ命
 ヲ奉テ昨夜ヨリトウカク山ニ露營スル兵ハ永

月
 日
 時
 分
 秒

山少佐ト共白瀬山ノ兵ト合シガレウラ向イ
開戦軍曹佐藤市藏勇戦死シ長垣見幾五郎ト兵
卒安孫子倫彦傷シ賊モ亦死傷アリト虽防戦喜
カメテ墨拔ケス依テ我軍銃ヲ劔ヲ装シ叫喊一
整墨へ突入シ賊竟ク敗走散乱ス千早中尉ハ二
分隊ヲ引テ直ク屋形ニ進マントス軍曹山田貞
助休候トシテ陰阻ヲ踐涉シテ能ク敵情ヲ探リ
屋形ニ達シ守兵ヲ置キ鹿沢ノ兵ニ連絡ス正面
本道ヲ進ムノ兵鹿沢ノ口ニ突入賊道ノ左右堡
塁ヲ堅固ニシ偶々哨兵五名墨中ニ監視スルニ
會シ安田中尉之ヲ急撃シテ鹿沢ノ村落ヲ取ル
賊五名ヲ斃シニ名ヲ生捕リ銃器并ニ彈薬ヲ劔
ヲ分捕ル荒城中尉ニ屬スル援兵ニ分隊ハ左翼

トヤ村攻撃ノ援兵トシテ本道左側ノ山ニ登リ
交戦セシム。左翼ハ石ノ本高岳鏡山ニ石等ノ哨
兵ヲ引揚ケ家村大尉前島坂本柄内ノ三少尉及
高畑曹長等各自ニ引卒ニ棲ノ木灰横谷ヲ経テ
トヤニ至リ賊壘ト一小溪ヲ隔テ、開戦賊三四
名ノ死傷アルヲ見ル賊竟ニトヤヲ放火シテ退
ク我軍守兵ヲ置テ晚ニ鹿沢ニ會ス堀大佐ハ鹿
沢突入ノ兵ト共ニ鹿沢ニ入り永山少佐ト會シ
尚期日ノ進軍ヲ部署シ此夜賊ノ襲来ヲ戒嚴ス
三十一日我兵一中隊トニ分隊ヲ前軍後軍ニ分テ
上長官以下凡テ上ノ園村ニ遣ヒ右側テルカク
道ノ官軍ニ聯絡シテ左側ダニゴイ山ニ登リ各
兵ト共ニ哨兵ヲ張り日暮山田郷賊兵ノ巢窟ヲ

明治
四年
庚

目レ口ケツトヲ放ツ火勢急ナ燃騰シテ終夜白
日ノ如シ他ノ一小隊ト二分隊安田中尉前導枋
内兩少尉等引卒ノ兵ハト十日リ山田道ニ捍セ
リ奔道進軍ノ兵前日散乱ノ賊兵徘徊スル者セ
各ヲ生捕ル

六月一日午前六時諸口ノ官軍一整人吉ヲ攻撃
シ午前九時人吉ヲ取ル賊大橋并ニ車道田町等
ヲ放火シテ走ル屯田兵ハ夕ニゴイ山台兵ノ左
側ヘ一中隊ト二分隊ヲ進メ山田御井出ノ口ニ突
入ス此取トヤヨリ山田道ヘ前日進軍ノ一小隊
ト二分隊合シタル導即安田中尉前導枋内兩少
尉等ノ隊ハ援兵ニ充テ後備トシ前軍ノ内一小
隊ト二分隊ハ直ニ人吉ニ道ヲ取リ台兵ノ側面

ヨリ攻撃ス内三分隊ハ控ノ木峰ニ進メ兩翼共
持口ノ賊ヲ悉ク打排ヒ人吉市街ニ突入正面ニ
早中尉引卒ノ二分隊ハ西町札ノ辻ニ至リ僅ニ
十名餘大橋ヲ渡リ衝突向岸ニ達スルヤ賊橋ノ
腹側ニ伏セ襲シテ銃撃スルニ依リ殆ニト困難
援隊ヲ絶スルヲ以テ早中尉及佐長平右吉次
口築津菜兵卒二三各隈川ヲ越ヘテ引揚ク此敗
軍曹岩田菜吉兵卒三品竜之助板橋秀作徳田庄
之助ノ四名戦死シ佐長宮原隆太郎傷ク右翼一
分隊野尻少尉ノ兵ハ緋屋町九日所出町ヲ經テ
櫻馬場ニ進メ隈川堤ニ伏セ水ヲ隔テ、文戦ス、
^他中隊ト一分隊ハ家村税所兩大尉各自ニ左翼
ニ進メ旧人吉城内ノ賊ト戦ヒ進メ隈川堤ニ

達セニトスルノ際三十名計リノ賊突然横町ヨ
 リ顯ハル坂本少尉等直ニ討テ之ヲ退ク賊狼狽
 隈川ヲ渡リ遁走スルヲ横射シ数名ヲ斃ス佐長
 成田春吉兵卒齊藤源助安藤光太郎及生徒河野
 仙太郎等勇戦銃傷ヲ受ク此賊ニ当リ賊ハ川向
 ニ在リ官軍ハ隈川ヲ隔テ文戦ス戦已ク酣ナ
 ルニ及ヒ市街村落ノ縮狹砲網ト共ニ空ニ漲リ
 晴朗ノ天之力爲ニ朦々夕リ午十二時台兵退軍
 ノ令ヲ傳ヘタルニ依リ屯田兵モ同様タルヘキ
 旨參謀士官井上氏ノ令アリ櫻馬場ノ下川堤ニ
 アル野尻少尉ノ一分隊ハ永田村聖泉院へ引上
 左翼ノ一中隊ト一分隊ハ依然戦線ニ配置セシ
 ニ川向ノ賊遁走ノ勢ヲ見詰メテ后本郡聖泉院

一引上タリ此日永山少佐折田春記官等先鋒ノ
各隊ヲ指揮シ堀大佐ハ援兵ヲ督シテ戦後ニ備
一曹長高畑利宜軍曹松本武彌佐長笹内次郎等
ヲ以テ各処ヘ斥候ヲ出シ戦況ヲ具セシム
十一日諸口進撃ノ部署定マリ屯田兵ハ宇野大
尉ノ引ク所砲兵中央分隊ヲ属セラレ吉田越ヨ
リ右翼大河間越進撃スルヲ以テ右翼ハキシヤ
越ヨリ迂回側面ヲ突カントシ税所大尉一中隊
ヲ引テ進ムノ処大雨濱水漲リ渡ルコトヲ得ス半
途ヨリ兵ヲ班シ正面ノ兵ト合ス正面大河間街
道ヲ進ムノ兵ハ地藏ノ元通り石坂峠ニ於テ半
前十時開戦賊壘高嶺ノ要地ニ在ルヲ以テ我軍
正面ヨリ交戦ス偶ニ急雨遂瓜甚ク賊勢ヲ助ク

利
史

ルヲ以テ安田中尉坂本少尉曹長渥味直茂以下
 ヲ牽テ側面ヨリ肉薄シテ罌へ攀ル賊根根道走
 食スルモノアリ哺ヲ吐テ北夕依之拾教罌ヲ一
 取リ直ニ大河間ニ達ス佐長菅野峯禎兵卒
 高瀬直六傷リ此日左翼ノ名兵大細ヲ取ルノ月
 的ヲ達セス四十九膳山ノミヲ占メタルニ自他
 田兵ハ旧哨線ニ引上ヘキ皆旅團長ヨリ傳令ア
 リ夜ニ入り古佛復ニ引上タリ
 十二日左翼ノ名兵吉田新道ヲ進ムノ報アリ也
 田兵ハ古佛復ヨリ大河間ヲ經テ觀音坂一名黒
原
 進ミ吉田郷ヲ眼下ニ見テ大砲ヲ發ス賊根根右
 往左往スルヲ見ル

十三日左翼ノ名兵昨日吉田新道ノ戦利アラス

鏡前番兵ヲ尤ハ加攻ヲ許スル

第二旅團ノ兵ト第三方面ノ兵ト連

絡シテ哨兵ヲ張リタレハ我兵第二方

面ノ兵ト聯絡スルノ道ハ第二旅團第

三方面ト聯絡ノ哨兵線外ニ係リ天既

ニ暮ニ及ヒタレハ第一中隊ノ一隊ヲ記

真章川ニ循テ哨兵ヲ張リ鏡前番

兵ヲ置キ、暇ノ夜襲ヲ警メ川北村ニ宿

陣ス

0536

河向、引揚
哨兵ヲ張ル

川ヲ隔テハ

傷ク

ヲ巡視ス

ハ、自我兵

ヲニ方面ノ

已メ加久藤

旅團ト聯絡

絡セズ道哨

加久藤川北

白史

0537

山ノ部

獨我兵突出左右聯絡十キヲ以テ大河間ニ引揚
 茅三方面吉田新道ノ兵ニ聯絡シテ哨兵ヲ張ル
 此日折田少番記官鹿見寫一行ク
 廿一日吉田へ乍假兵ヲ出ス賊真幸川ヲ隔テハ
 祖撃スルモノアリ我軍曹服部四郎傷ク
 七月一日山縣參軍山田少將防禦線ヲ巡視ス
 八日茅ニ旅團吉松ヨリ永山村へ進ムニ自我兵
 凡テ加久藤ヲ經テ飯野ニ至リ茅ニ方面ノ
 兵ト聯絡スヘキノ処茅三方面ノ兵已ニ加久藤
 越ノ山道ヲ下リ真幸川ヲ隔テ茅ニ旅團ト聯絡
 之テ哨兵ヲ張リ未タ茅ニ方面へ聯絡セズ道哨
 兵線外ニ係ルヲ以テ前哨兵ヲ張リ加久藤川北
 相ニ宿陣ス

月 廿 庚

0537

九日右翼ハ茅ニ旅團ノ兵ト真幸川ヲ隔テ、聯
 絡シ左翼ハ茅ニ方面河野少佐ノ手ト勝^續流シ
 浴テ哨兵ヲ張ル
 十日茅ニ旅團真幸川ヲ限リ灰塚原ヨリ永山村
 ヲ經テ小林街道進撃ニ自流ニ隨テ上行屯田兵
 茅ニ中隊ヲ永山少佐引率左小隊ハ前導少尉引
 率ニテ家村大尉ト共ニ本道ヲ進ミ右小隊ハ安
 田中尉坂本初内兩少尉曹長高畑利宜瀝味直茂
 等枚水流村ノ賊ヲ討拂ヒ横尾山ヲ越行ニ敗賊
 ヲ追テ並木ノ原右側ニ出左小隊ハ己ニ並木ノ
 原ニ至ル賊死散ヲ捨テ走ル軍曹黒河内十太
 丈佐長森石藏傷キ兵卒石森嘉七死ス初メ嘉七
 敗賊ヲ追テ突出並木ノ原ニ進ム賊ニ名路傍ヨ

リ、技刀、ミテ切込嘉七、頗ル防戦銃、劔、テ賊一名
ハ重傷ヲ負ハレ、ノ夕、ト、斥援兵ノ後ル、ヲ以、辰
寡敵セス奮戦死ス
十一日、第一中隊ヲ先鋒トシテ、小林ニ進、街道
ヨリ左翼陣跡山賊壘ニ對シテ、哨兵ヲ張ル
十四日、第一旅團高原攻撃ニ、自声援トシテ、岩瀬
村ニ至リ、第一方面ノ兵ト共ニ、岩瀬川ヲ隔テ、
陣跡山ノ賊ヲ射撃ス、我兵、辛工藤七、之助、傷シ、賊
野尻ニ走ル、我防禦線ハ、尚ホ旧ニ仍ル
十六日、右翼第一旅團ヨリ聯絡ヲ為ス、ノ高議アリ
リ、屯田兵并ニ、第一方面ノ兵凡テ野尻ニ進軍セ
シ、賊險要ニ、抛リ我兵防禦スルニ、便ナラズ、且
攻撃セシトスルモ、團長ノ許可ヲ經サルニ、自又

利
便
矣

旧線に復ス

十七日賊兵高原に在り本軍第一旅團へ襲来參謀長黒川大佐ヨリ命アリ陣跡山へ第一方面ノ兵一中隊ヲ出シ岩瀬川橋詰へ屯田兵三分隊ヲ分遣セリ

十八日陣跡山ノ左右ヨリ賊大拳襲来シ野尻街道に於て開戦ハ本少佐ノ兵正面ヲ防禦シ屯田兵左翼陣跡山に防戦ノ備ヲ為シ永山少佐自ラニ分隊ノ兵ヲ以テ迂回シテ右翼ヨリ側面ヲ衝ク久木田坂本兩少尉モ亦健足ノ兵若于名ヲ引テ勢ヲ加フ賊敗走野尻に退ク

廿一日屯田兵第一方面ノ兵ト合シ野尻ノ賊ヲ進撃スルノ部署定マリ遂明陣跡山に整列スル

ノ際賊軍右側山上ヨリ又大拳シ来リ街道ニ於
テ開戦ス我哨兵ト右翼ノ文戦ハ税所大尉等一
中隊ヲ以テ向ヒ家村大尉ハ第一中隊ヲ以テ安田
中尉ヲ本道ニ置キ坂本初内兩少尉ヲ左翼ノ山
上ニ登シ前軍少尉軍曹松本武彌ト共ニ二分队
ヲ令シテ賊ノ屯集セル頭上ハ山ヨリ礮撃射
セシメ大ニ勝利ヲ得テ早中尉モ第一中隊右小
隊ノ四分隊ヲ以テ之ヲ援ク此日全軍野尾ニ入
露營ス

廿二日屯田兵前面天カ谷ニ進マントスル片等
ニ方面ノ兵已ニ左翼ノ山上ヨリ急ニ賊ノ側面
ヲ突クニ依リ賊散々敗走直ニ天カ谷ヲ占メ屯
田兵ハ哨兵ノ右翼ニ位ス

廿四日鹿見島ヨリ進軍ノ各旅團本日都ノ城攻
撃ノ前線少尉ト奇藤曹長ヲ斥候セシム
廿六日哨兵線ヲ笛ケ水ニ對シ右翼第一旅團ト
聯絡ス
廿七日漆野攻撃ノ部署定マリ屯田兵第一中隊
ハ旧線ヲ守リ第一中隊ヲ紙屋村ニ進メテ街道
及左側ノ山上ニ露營ス
廿八日右翼第一旅團ト連絡シ第一中隊ヲ先鋒
トシ永山少佐ハ左小隊トシ篠寄久木田兩少
尉ト本道ノ左側ヨリ溪ヲ隔テ午前四時開戦
シ堀大佐ハ昨夜ヨリ左側ノ丘ニ露營シ高野ヨ
リ同戦ニ開戦シ右翼ノ左小隊ト合ス永山少佐
ハ直ニ溪ヲ渉ルヲ令シ溪ヲ渉リ向岸ニ登ル

取參謀士官福^區中尉モ来リ會ヒ共ニ右翼街道
 在ル第一旅團ノ兵ト交戦スル賊ノ脊後ニ於テ賊
 狼狽拔刀ニテ切込ム我兵數戰ス建部少尉一分
 隊ヲ以テ右側ヲ突キ大ニ賊勢ヲ挫キ尾撃街道
 進ム賊ヲ討取ル於ニ各銃器彈藥ヲ分捕ル其
 正面ニ當ルモノ兵卒塚込重三郎戦死依長橋本
 典四郎重傷ヲ負賊ハ緩ト高岡ニ走ルヲ見小惣
 シテ兵ヲ綾村へ進メ左翼第一方面へ聯絡シテ
 大平山へ哨兵ヲ張ル
 三十日屯田兵第一中隊ヲ昨夜ヨリ三好少佐ノ
 手ニ屬シ本庄一分遣シ第一中隊ヲ以テ本日の
 代ヲ攻撃ス賊已ニ八代ヲ去テ遙クムツノ原ニ
 防禦ヲ張り我兵ヲ目シテ発砲スレモ距離遠キ

ヲ以テ志砲セス左八代ヨリ石八幡村一河野サ
佐ノ兵ト連続シ哨兵ヲ張り本庄ノ兵ト聯絡セ
リ
三十一日屯田兵ハ第一方面ノ兵ト都於郡ヲ攻
撃ス部署各違フ達スルヲ以日暮都於郡ニ至レ
ハ第一方面ノ兵都於郡ヲ經テ佐土原ニ突入シ
賊ハ一激川ノ向岸ニ砲臺ヲ設ケ防禦スルヲ斷
ク
八月一日屯田兵ヲ一激川ノ哨線ニ進メ各旅團
集合スルモノ甚多シ
二日屯田兵一大隊先鋒ニテ第一中隊ハ家村大
尉安田中尉前導初内兩少尉等左翼ノ上流ヨリ
川ヲ渡ラントシ前衛巴ノ中流ニ至ル頃向岸ニ

穴ヲ掘リ潜伏スル所ノ賊一敗ニ發射ス依テ前
衛ヲ引上ケ水ヲ隔テ以テ戰暫ク敗レシテ永山サ
佐ヨリ川ヲ渡ルヲ令ス兵士先ヲ争テ渡リ接戰
直ニ未永村ニ達ス右翼第一中隊ト砲隊トハ本
道ノ左側ニアリ遂明ヲ明ク待テ一敗ニ發砲ス左
翼上流ヲ渡ラントスルヲ見ル此敗堀大佐ヨリ
第一中隊へ川ヲ渡ルヲ令シ砲隊へハ步兵愈前
面ノ賊塁ヲ取ルヲ見認テ急ニ川ヲ渡ルヲ令シ
置キ一中隊ト兵ト川ヲ渡ルト早中尉篠崎久木
田建部ノ三少尉等皆先ヲ争テ進ニ未永村ニ登
リ第一中隊ト合シ奮戰大ニ勝利ヲ得直ニ高鍋
ニ突入ス第一中隊兵卒櫻井清春戰死任長大関
雄孟兵卒工藤泰三郎真柳六藏傷ト第一中隊兵

卒石川瀨吉モ傷ク賊死骸ヲ路傍ニ遺スルモノ
セアリ行ニ銃器彈藥ヲ分捕リ高鍋ニ達スル片
尚殘賊ノ遁走スルヲ追ヒ賊宮ヲ奪ヒ兵糧其他
ノ雜品數種ヲ分捕ル
五日賊勢大ニ衰ヘ諸口ノ官軍輻湊スルヲ以テ
屯田兵ハ引上度段旅團長へ稟議ノ上郡於郡へ
引上近傍殘賊ノ有無ヲ偵察ス
十一日郡於郡出發高尾越川有水等ヲ經テ十三
日郡ノ城ニ着シ此地ニ暫日滞陣スル旨旅團長
及総督本營へ具申ス
十六日屯田兵引上ノ御指令及慰勞金ヲ賜ハル
等ノ旨ヲ旅團長ヨリ達セラレ
廿一日將校以下一同金川丸へ乘組遊覽ヲ奉

レ廿二日神戸へ着廿八日東京丸へ乗組神戸ヲ
乗ス三十日東京へ着九月廿二日秋津洲丸へ乗
組東京出帆函館ヲ経テ廿九日小樽へ入港同三
十日札幌へ到着ス

月
日
支

0547

